

ベートーヴェン生誕250周年

往年の巨匠達を魅了したドイツ伝統の響き
楽聖生誕の地ボンより待望の来日が実現!

ボン・ベートーヴェン交響楽団

Beethoven Orchestra Bonn

フジコ・ヘミング [ピアノ]



モーツァルト:ピアノ協奏曲第21番 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」
リスト:ラ・カンパネラ ベートーヴェン:「エグモント」序曲
(以上は予定演奏曲目で、実際のプログラムは当日発表となります。)

指揮
ディルク・カフタン

©Felix von Hagen

フジコ・ヘミング×ドイツの名門!

©Thomas Frey

©Fuzjko Hemming

2020.6/20 土 開演15:00(開場14:30)

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

S席¥12,000 / A席¥10,000 / B席¥8,000 / P席¥6,000 [税込] ※未就学児入場不可

主催:(公財)所沢市文化振興事業団/テレ玉/テンポプリモ/サンライズプロモーション東京

チケット発売所

- ミューズチケットカウンター 04-2998-7777 インターネット予約 所沢ミューズ 検索
- チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:173-995) +セブン-イレブン、チケットぴあ店舗
- ローソンチケット 0570-000-407(オペレーター対応 10:00~18:00) +ローソン、ミニストップ店内Loppi
- e+(イープラス) ファミリーマート店内(Famiポート) ●サンライズプロモーション東京

チケット発売日

一般 2020年1月25日(土) 10:00AM
ミューズ会員 2020年1月18日(土) 10:00AM



「ベートーヴェン・イヤーに最高の公演を」

楽聖のメモリアル・イヤーに実現した、本家本元のオーケストラによる来日ツアー！
ベーム、チェリビダッケ、ヴァントなど往年の巨匠たちに愛された伝統の響き

フジコ・ヘミング×ドイツの名門オーケストラ！

日本中が湧きたつ2020年は、楽聖ベートーヴェンの生誕250周年。その一生に一度とも言える記念すべき年に相応しい最高の公演が実現しました！

楽聖の生誕地ボンにおいて、100年以上の歴史を有するボン・ベートーヴェン交響楽団。巨匠アーベントロートや宗教音楽の大家グスタフ・クラッセンスなどが音楽監督を務め、エーリッヒ・クライバーやベーム、チェリビダッケ、ヴァント、マズアなど巨匠達が度々客演を行ってきた、ドイツの伝統を受け継ぐオーケストラです。指揮者のディルク・カフタンはドイツ出身で、現在このオーケストラの音楽監督を務めています。これまでオーストリアのグラーツ歌劇場やドイツの古都アウグスブルク歌劇場の音楽監督を歴任してきた実力派のマエストロとして知られています。



ボン・ベートーヴェン交響楽団 Beethoven Orchestra Bonn



© Felix von Hagen

1907年ボン市が地元のコブレンツ交響楽団と契約してボン市交響楽団が結成されたのを楚とする。第一次大戦中には解散、再結成を強いられ、また第二次大戦時には本拠地ベートーヴェンホールが空襲を受けて1959年の再建に至るまで苦難の時期を過ごすが、この間も巨匠ヘルマン・アーベントロート、グスタフ・クラッセンス等歴代の指揮者が積極的な演奏活動を行った。また、設立時の1907年のR.シュトラウスによる自作の公演をはじめ、これまでにM.レーガー、ヒンデミット、ブフィツナー、E.クライバー、カイルベルト、ベーム、チェリビダッケ、ヴァント、マズア等歴史上の大指揮者と共演を行ってきた。近年はR.コフマン、C.ベリックを経て、現在はディルク・カフタンが音楽監督を務めている。主にベートーヴェンホールとボン歌劇場で年間150回もの公演を行うと共に、毎年9月に行われるベートーヴェン音楽祭のメインオーケストラとしても活躍している。

指揮 ディルク・カフタン Dirk Kaftan, Conductor



© Irene Zandl

1971年、ドイツ・マールブルク出身。ドイツとカナダで育ち、18歳にしてドイツ最古の街として知られるトリアー歌劇場にコレペティトウアとして勤めた後、ドイツ・デトモルト音楽大学で学んだ。2006年からフィリップ・ジョルダン（現ウィーン国立歌劇場音楽監督）など名匠が音楽監督を務めたオーストリアのグラーツ歌劇場の首席カペルマイスターに就任し、さらに2013年からは音楽監督に就任。幅広いレパートリーに取り組み、公演はいずれも好評を博した。その他、ケルテスやブルーノ・ヴァイルなどが率いたドイツの古都アウグスブルク歌劇場の音楽監督を2009年から2014年まで務めている。2017年からボン・ベートーヴェン交響楽団とボン歌劇場の音楽監督に就任。以来、オーケストラの発展とレパートリーの拡充に尽力し、様々な新しいプロジェクトを成功に導いてきた。2019/20シーズンにはベートーヴェンの歌劇「フィデリオ」の上演をはじめ、ベートーヴェンの生誕記念の様々なプロジェクトに取り組んでいる他、劇音楽「エグmont」で同オーケストラとの初録音も行っている。これまでに、バイエルン放送管弦楽団やベルリン放送交響楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン交響楽団、ハノーファー州立歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、デンマーク王立歌劇場などドイツを中心にヨーロッパの歌劇場やオーケストラに客演するなど、著しい活躍をみせている。

ピアノ フジコ・ヘミング Fuzjko Hemming, Piano



© Fuzjko Hemming

スウェーデン人画家・建築家の父と、日本人ピアニストの母の間にベルリンで生まれる。母の手ほどきでピアノを始め、10歳でレオニード・クロイツァーに師事。クロイツァーは「彼女はいまに世界中の人々を感激させるピアニストになるだろう」と予言をしていた。東京芸大を経て、文化放送音楽賞・NHK毎日コンクール受賞、その後、ベルリン高等音楽学校に1位で入学、ウィーンでパウエル・バドゥラ＝スコダに師事。ブルーノ・マデルナ、レナード・バーンスタイン、チェルカウスキー、マガロフ等多くのクラシック界の権威にその才能を認められて支持を獲得し、コンサートを行っていたが、聴力を失うアクシデントに遭遇。1999年、リサイタルとテレビのドキュメント番組が大反響を呼び、デビューCD「奇蹟のカンパネラ」他をリリースし、クラシック界異例の売上で日本ゴールド・ディスク大賞、クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤーを4回受賞した。その稀有な半生をフジTV系列にて菅野美穂の主演でドラマ化され、高視聴率を獲得し、人気を不動のものにした。モスクワ・フィル、ロイヤル・フィルなど世界各地の著名オーケストラと共演。彼女と共演したミッシャ・マイスキーは「あなたの芸術を賞賛します」と形容している他、共演した多くのアーティスト達が絶賛している。毎年多くのチャリティ・コンサートを行っている他、大の動物愛護者であり、ドイツでは彼女の名を冠した動物保護団体もできている。

